

南包括目標	アクションプラン(行動計画)
①高齢者とその家族が、権利や尊厳が守られ、必要な時に必要な支援が受けられている	地域住民が安心して暮らせるように、包括の活動を知ってもらうとともに、支援を行う。 ①民生委員の訪問時同行しパンフレットを渡し顔を合わせることで、気軽に相談できる相談窓口として知ってもらう（未組織地域から中心に回り、3年で(R9までに) 全地域を訪問する）。 ②健康フェスタの未来場者について民生委員と情報共有し、必要に応じて個別訪問する。 ③ケアプラン点検に参加しその人が目指す自立した生活を送れるよう要支援認定者及び総合事業対象者の支援をし介護保険サービスからの卒業を目指す。 ④虐待ケースには速やかに対応する。成年後見制度の必要なケースについては中核機関等と連携して利用に結びつける。 ⑤成年後見制度・意思決定支援についてスキルアップするために研修や勉強会に参加する。
②高齢者一人ひとりが、介護予防や認知症についての理解を深めることで、主体的に健康づくりに取り組んでいる	いくつになっても楽しめる地域を目指す。 ⑥地域の老人会やサロン、出張講座を通じて多くの人に介護予防や健康づくりに関心を持ってもらう。（1年間で12回目標。）健幸すぽっとを案内することで、介護予防につなげる。 ⑦毎月なかの邸カフェを開催する。オレンジルームと協働し認知症の方の居場所作りをする。 ⑧認知症ネットワーク会議に参加し情報共有、地域の啓発活動に参加する。認知症になっても住みやすい地域づくりを目指して関係機関と参画する。（必要時）
③高齢者支援に関わる人等が、それぞれの役割を果たしながら協力できている	高齢者に関わる人たちが抱え込まず情報共有ができていつでも支援できる包括を目指す。 ⑨日頃から密にコミュニケーションをとることで、高齢者に携わる人たちが一人で考え込まずに気軽に相談しやすい関係性を作る。 ⑩毎月地域ケアマネジメント会議を開催し関係機関と情報共有するとともに助言をもらう。 ⑪ケアマネジャーを含む関係者から相談のあったケースについて関係機関に参加を依頼し、多職種と情報共有する。意見交換や助言を受ける中、更なる自立支援、重度化防止ひいては高齢者の生活の質の向上を目指す目的で会議を随時開催する。 ⑫業務の効率化によりＩＣＴを活用することによっていきいきと働ける環境づくりを目指す。
④地域に暮らす一人ひとりが、お互いに支え合っている	住民が主体となり、関係機関や地域が見守り支えあう地域づくりを目指す。 ⑬地域ケアマネジメント会議や地域ケア個別会議から共通課題を抽出して、関係機関や地域住民と情報共有し、課題解決のための方策を検討する地域ケア推進会議を開催する。（年1回） ⑭毎月民生委員の定例会に出席し、お互いの活動を知る。また、地域の高齢者について情報共有する。 ⑮担当地域の地域密着型サービス運営推進会議に参加して情報共有する。（5ヶ所） ⑯西光寺の取り組みに参加し子どもから高齢者までの居場所作りに協力する。新たな取り組みとして、西光寺にも参加できない地域の啓発活動を行う。 ⑰おでかけあんしん見守り事業の啓発活動を行うとともに、搜索模擬訓練に協力する。

令和7年度実施内容	評価	課題・改善点
①R7年7月巡り原（未組織地域）・10月東神足・7月東和苑の民生委員さんと高齢者宅を訪問し、チラシ等の案内をした。 ②友岡地区（来場者29人）・久貝地区（来場者19人）にて健康フェスタを開催し、民生委員と「未来場者」に関する情報共有を行った。 ③今回の時期ではケアプラン点検は未実施。 ④虐待ケースに対して速やかに対応している。13件の対応を行った。 ⑤R7年8月に第一回成年後見協議会があり参加。第二回協議会はR8年1月開催予定。R7年11月には金融機関との意見交換会があり参加した。	①気になる方高齢者世帯を訪問し包括の周知につながった。 ②情報共有は実施したが、未来場者への個別訪問によるフォローアップには至らなかった。 ③点検はなかったが、常にその人が目指す自立した生活を送れるようこころがけた。 ④ケースが複雑化しており早期の解決に至らないケースが増えている。 ⑤高齢、障がい、三士会、税理士など分野を超えて意見交換を行うことができた。また、金融機関とも意見交換を行い連携体制の強化につながった。	①今後も民生委員さんと連携を取りR9年まで全地域を訪問したい。 ②健康フェスタを通じた情報共有は一定の成果を上げたが、個別訪問による具体的な支援まで進展せず、次年度の課題とする。 ③ケアプランを関係者同士で検討したり、より利用者さまの生活が豊になるようなケアプランを目指す。 ④関係機関、支援者との連携を図り解決に向けて取り組むと同時に、ケアマネジャーや民生委員とも連携をとり虐待の防止に努める。 ⑤分野を超えた意見交換会や研修に参加し、成年後見制度、意思決定支援についてスキルアップを行う。
⑥令和7年4月から11月までの間で28回開催した。 ⑦計7回実施し総参加者79名（男性14名・女性65名）。認知症の方やそのご家族が気軽に集える居場所づくりを行うことができた。 ⑧認知症ネットワーク会議に5回参加した。7月ホッと一息広場講演会 家族介護者支援事業（アンガーマネジメント）福祉大会、8月認知症VR体験講座、9月講演会、10月図書館展示、講演会、12月なでしこカフェ（とりしあんで）など計7回参加。参加により包括ブースを設営し包括案内チラシ等を置き周知に努めるとともに市民さんからの相談に随時対応した。	⑥高齢者（主に女性）の定期参加が見られ、地域サロンとしての健康増進・交流機能が継続的に発揮された。 ⑦参加者の皆さんが互いに交流を深めながら、リラククスヨガや音楽療法などの活動を楽しむ様子が見られた。 ⑧参加により関係機関との情報共有することができ、包括ブースにて直接市民さんからの相談に対応。	⑥一部活動（ヨガ、後半の音楽レク等）は参加者数が少なく内容の工夫や周知強化が必要。また男性参加は全体の約10%と少数。今後の男性向け企画検討が課題。 ⑦参加者数が少ない回があったため、次回は事前に参加者の方に聞くアンケートを入れて、みんなが来たくなるプログラムに変えていく。 ⑧認知症のカミングアウトできる街は優しい街と言われているように我が街もどんどんカミングアウトできる街を目指す。
⑨ケアマネジャーや民生委員からの相談を受け、同行訪問を行うなど速やかに対応している。コミュニケーションをとることで相談しやすい関係作りに努めている。 ⑩毎月地域ケアマネジメント会議を開催している。 ⑪ケアマネジャーや関係者からの相談を受け、情報共有や意見交換を行った。 ⑫議事録作成時に業務効率化ツールを使用した。	⑨ケアマネジャーや民生委員からの相談件数が増えており良好な関係性が築けている。 ⑩会議を開催し情報共有を行うことで、支援の内容や方向性について助言をもらうことができている。 ⑪関係機関等で情報を共有し、解決の方向性を導き出すことができた。 ⑫業務効率向上のためICTを活用できた。	⑨密に連絡を取り合うことで良好な関係を維持し相談しやすい包括を目指す。 ⑩積極的に情報共有を行い助言を受け、適切に支援や対応が行えるよう努める。 ⑪関係機関や多職種と連携を図り、高齢者の生活の質の向上につなげる。 ⑫今後もICTを活用して業務の見直しや効率化を図り、利用者との対話を充実させていく。
⑬地域ケア個別会議を1回開催した。R8年2月には地域ケア推進会議の開催を予定している。 ⑭毎月、民生委員の定例会に出席し、お互いの活動内容を共有するとともに、地域の高齢者に関する情報を積極的に交換した。また、神足地区と勝竜寺地区の民生児童委員協議会にも毎月参加することができ、地区ごとの福祉課題や支援事例を学び、連携を深めた。 ⑮地域密着型サービス運営会議に13回参加した。 ⑯R7年4月に実行委員会があり参加。7月には第8小学校区未組織地区協議体に参加。 ⑰おでかけあんしん見守り事業について1件案内した。R8年2月には搜索模擬訓練に協力予定。	⑬情報の共有を大切にし、同じ方向にベクトルをあわせることで課題の抽出や課題解決につながることができた。 ⑭地域の高齢者に関する情報を毎月交換したことで、孤立しがちな方や支援が必要な方の早期発見・早期対応につながるケースが生まれ、見守りネットワークがより強固になった。 ⑮地域密着型サービスの取り組み内容について理解を深め、情報共有を行うことができた。 ⑯西光寺では子供が少なくなっているため参加回数は減っているが、新たに第8小学校区未組織地区の協議体に参加した。 ⑰事業の必要な方に対して案内できた。	⑬計画を見直して評価と改善の結果を次の計画に反映させ、PDCAサイクルを継続的に回していくことで、より実効性の高い「支えあいのまちづくり」を目指す。 ⑭高齢者情報のフォローが行き届かないケースがあったため、共有された気になる方をメモに残し、自分の担当地区内で可能な範囲で見守りや声かけを心がける。 ⑮継続して会議に参加し、地域のイベントの案内などを行う。 ⑯関係者と連携して活動を行い、地域の活性化につなげる。 ⑰必要な利用者に対して案内し安心して生活につなげる。